

2. チャバネゴキブリに対するベイト剤の効果と 都内 PCO のベイト剤使用状況

○佐々木 健¹・芝生 圭吾²・長内 良憲²・立花 健司³

(¹アペックス産業 (株)・²鵬図商事 (株)・³シンジェンタジャパン (株))

現在、チャバネゴキブリの防除施工において、当社ではベイト剤を使用する状況が減少しており、その背景にはベイト剤の喫食忌避や、施工方法の変化が考えられる。

また、ペストコントロールを中心とした業務にて、現場作業に長らく従事していると、業務スタッフ個々において施工方法に違いが生じ、施工品質に差が見られることが懸念される。

そこで今回、業務スタッフに向けたベイト剤使用状況のアンケートを実施し、現在のチャバネゴキブリの防除作業において、ベイト剤を含め、どのような薬剤による施工を中心としているのか、ベイト剤の施工ではどのように作業を行っているか等を調べた。

一方当社では、低価格帯のベイト剤に対しては効果があまり良くないという意見が散見されており、その効果を確認するため、現場から採集し社内で累代飼育したチャバネゴキブリを用いて試験を行った。

試験は、プラスチックケース (16×23×9 cm) に水、固形飼料、ろ紙製シェルターを入れ、異なる店舗から採集したチャバネゴキブリ雌成虫に対し、比較的 low price と思われるベイト剤アドピオン LS ジェル 0.1g を供試した。

結果は、効果の高い店舗、低い店舗と異なる結果が得られ、店舗によってベイト剤の効果に差が見られることが示唆された。また、アンケートではベイト剤のみでの施工より他剤との併用が多く、他剤で処理できない箇所にベイト剤を使用している状況等が見られた。